

＜R1年度 ガーデンハックルベリーの実証栽培について＞

レポート作成者：出雲崎町農業委員会事務局 黒崎

出雲崎町農業委員会では平成30年度に引き続き、今年度も耕作放棄地対策として「ガーデンハックルベリー」の実証栽培を行った。今年度は栽培普及に向け、苗の無料配布を行うことにした。

【ガーデンハックルベリーの特徴】

- ・比較的簡単に栽培ができる。
- ・ガーデニング栽培も可能である。
- ・痩せた土地でも栽培が可能である。
- ・目に良いとされるアントシアニンがブルーベリーの4倍以上と非常に多く含まれている。

【実証栽培レポート】

1. 苗起こし（4月26日）

育苗用のトレー（25穴のもの）10個と育苗ポット100個を使用し、一つの穴に種を3～4粒ずつ捲いた。なお、土についてはホームセンターに売っていた育苗用土を使用した。



ガーデンハックルベリーの種



苗起こしに使用したトレイとポット

トレイの一区画とポット合わせて350個の苗起こしを行った。種を捲いてから1～2週間で発芽し、1カ月後にはトレイも葉でフサフサの状態になった。元々、野生種の植物であるためか発芽率はほぼ100%であった。



5月7日



5月10日



6月5日

2. 耕起・定植（6月6日）

実証栽培用の畑として昨年度と同じく大字立石地内の農地（72.5㎡）を地元の方から借用し、150本の苗を定植した。

《定植作業の様子》



①定植前の状態



②耕うん作業



③畝間の溝掘作業



④畝の整地・補正等



⑤畝にマルチング黒フィルムを張る



⑥定植用の穴をあける



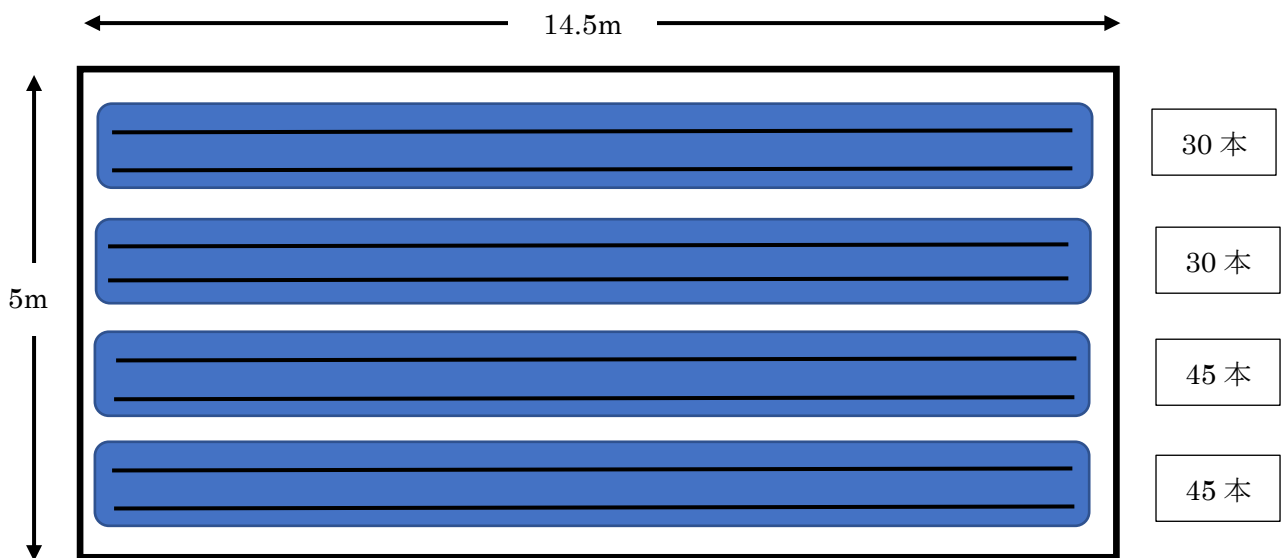
⑦定植



⑧定植の後、支柱を立てる



作業完了後の状態



3. 苗の無料配布（6月8日）

昨年度から予定していた栽培普及に向けた苗の無料配布を実施した。150本を用意し地元JAの野菜市（朝市）や、検診がおこなわれていたふれあいの里で、苗にハックルベリージャムのレシピを添えて配布した。主婦層には好評であった。



J A野菜市



ふれあいの里

4. 収穫までの観察、作業等（6月～7月下旬）

野生種であるため自然の雨をあてにしていたが、日照りが続く日は水やりを行った。マルチをしてあるため、畝に雑草は生えてこないが、畝間には雑草が生い茂るため何回か草取りをし、また、畑まわりの除草作業を行った。定植後2週間後くらいに追肥を行い7月になると背丈も1m近くになり花も咲き始めてきたので支柱をもっと長いものに取り換えた。中旬になると実が付き始め徐々に紫色になってきた。しかし、まだこの状態では実に毒素（ソラニン）が含まれており、食用にすることができないため収穫は熟して黒色になるまで待たなければならない。



支柱取り換え



主茎を支柱に取り付け



実が付き始めた様子



実が濃い紫色になった様子

5. 収穫（8月19日）

8月上旬になってくると、昨年度と同様なぜか徐々に枯れ始めてきた。元々野生種であるため追肥をしたことが原因かもしれない。それとも土が合わないのか。実が黒くなっているものがあるのでたまたま収穫作業を行った。この他に役場の裏や委員及び事務局長の畑で栽培してもらったものがあるが、そちらについては上手く実がついている。事務局長の畑で実ったものはまるで巨峰のような大きな実であった。



収穫の様子

6. 収穫した実の販売（10月20日、11月3日）

実証栽培の畑で取れた実は約12kg、そのほか委員及び事務局長の畑の実を分けていただき、全部で約50kgの実を調達し、町のイベント会場にてPR販売を行った。生涯学習フェスティバルでは主婦層が多く完売することができた。



出雲崎美食ラリー（10月20日）



生涯学習フェスティバル（11月3日）

7. ジャムづくり（11月11日）

ガーデンハックルベリーの実はそのまま食べてもおいしくないため、ジャム等に加長工して食べるのが一般的である。委員や事務局長の畑の実をさらに分けていただき今年度もジャムを作った。

《ガーデンハックルベリージャムの作り方》

- ・ガーデンハックルベリーの実 1kg
- ・砂糖 400～500g（お好みの甘さに合わせて量を調節してください。）
- ・重曹 小さじ1 ・レモン汁 大さじ2～3 ・塩 2つまみ



ハックルベリーを煮込む様子



ハックルベリーをミキサーにかける様子



ジャムを瓶詰する様子



瓶詰したジャム

ジャムの完成品はPR活動により、農政関連機関や視察研修先等に配布を行った。販売も試み、事務局長や委員1名が食品衛生責任者の資格を取得したが、保健所に確認したところ製造販売許可にあたり専用の加工製造施設があることが大前提であるため断念した。

7. 検証

栽培に関しては、やはり比較的手間のかからない作物である。野生種であるので発芽率は相当高いが、水も毎日やることや肥料のやりすぎ（追肥）に注意しないと枯れてしまう。実は味がないことから害虫による被害は無かった。

あまり肥えた土壌には適していないと思われるので、耕作放棄地等の荒れた土地で栽培したほうがよいと考えられる。

《最後に》

今回の実証栽培の実施にあたり、御協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

令和元年度は平成30年度からの継続した取り組みとして、苗の無料配布等のPRにより栽培を普及させることを目的としました。委員によりガーデンハックルベリーを活用できる事業者への販路開拓活動も行いましたが、必要な時に安定した量の納品が必須であるとのことでした。

今後も出雲崎町の耕作放棄地解消や遊休農地の有効活用に向けた活動をして参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。